

山梨火山

学校体育研究同志会山梨支部ニュース

【3月号】 2007.3.30

支部長 橋爪 隆 055-233-5711

事務局長 一瀬栄政 055-272-5766

編集局 植松和浩 0551-36-5030



桜を求めて (写真は神代桜 3/29 撮影)

甲府市はそろそろ終わり、韮崎市が満開に近づく中、北杜市武川村の実相寺にある神代桜はすでに満開で、次の雨で終わってしまいそうでした。寺の他の桜の見頃はあと少しです。同じく武川村真原の桜並木は、まだまだ、また、更に北の、同市長坂町の清春白樺美術館や同市小淵沢町の大系桜は固いつぼみでした。

2月例会・ 関東ブロック報告

2月25日(日)に、関東ブロック研究集会・甲府が、山梨英和中高等学校に於いて行われました。

内容は、山内先生を招いての、「ねこちゃん体操」研究会でした。単なる伝達講習・入門教室ではなく、参加者による、グループ学習によって進められました。年度末による忙しさもあり、報告が遅れてしまいましたので、4月号で、報告をします。

子どもたちの体力が衰えている？

【山梨は全国と比べて低い】

山梨県教育委員会から、今年度実施された体力テストの結果と考察が発表されました。それによると、

- 1、種目別平均値では、握力・長座体前屈・上体起こしを除く五種目で、ほとんどの年齢で全国平均を下回っている。
- 2、合計点でも、男女ともほとんどの年齢で全国平均を下回っている。
- 3、走・跳・投といった基礎的な運動能力や敏捷性・持久力が全国平均を下回っている。
- 4、総合的な体力を示す総合評価では、優れているA・B段階の割合が全国より低く、劣っているD・Eの割合が高かった。

という結果でした。

【全体的に昨年度より向上している】

一方、昨年度との比較では、

- 1、総合評価では、男女ともほとんどの学年でA・B段階の割合が増加、C・D段階の割合が減少し、全国との差が縮まっている。
- 2、合計点は、一部を除いてほとんどの学年で昨年度の数値を上回っている。
- 3、各種目別については、七〇%が昨年度の数値を上回っている。

という結果でした。

【規則正しい生活習慣が重要】

また、健康三原則（運動。食事。睡眠）と体力との関係が考察され、

- 1、良く運動する児童生徒の方が、合計点が高い。
- 2、毎日朝食を食べている児童生徒の方が合計点が高い。
- 3、睡眠時間は、時間の長さより、「早寝」「早起き」といった規則正しい生活習慣の影響が大きい、といった指摘がされています。

あわせて、学年があがるにつれて外遊びの時間が少なくなり、小学校の高学年でも1週間で0時間といった傾向が少なからず見られていたとされています。

【体力とは？】

大人の間では、一般的には「スタミナがある持久力のある人」を指すことが多いようですし、風邪や病気をしない人に対して「体力がある人」というように、体力についての考え方はいろいろあります。

「人間が環境に適応するための身体的なエネルギーの大きさとエネルギーの出し方を調整する能力。この能力は、ある作業をすることによって、はじめて確認される。だから、体力測定によって大きなエネルギーが確認されても、特定の作業に必要なエネルギー調節がうまくいかなければ、エネルギーを発揮できない。『体力づくり』は、具体的な作業（たとえばスポーツ）を目標において行わないと意味がない」（「教科教育法」・日本標準）という定義に従えば、今回のテストで

は、身体活動能力を中心としたいわゆる「行動体力」についての調査といってよいでしょう。(これに対して体の抵抗力などを表す言葉として「防衛体力」がある)

【岩手小学校では】

また、数値に一喜一憂することも、特に小学生段階では筋力負荷などによって身体発達上かえって有害になる面もあり、慎重に進める必要があります。

岩手小学校では、部分的な強化トレーニングを取り入れるのではなく、よく言われる「運動神経の良い子」を目指して、総合的な身体づくりとして、体育の授業やロング休みなどに縄跳びに取り組みなどして日常的に運動に親しむ活動を進めています。実際、岩手の子どもはよく外で遊んでいます。

各ご家庭でも「健康三原則」に則っての子育てを、学校と共に進めてくれるようお願いいたします。それと、大人も体力維持・健康増進を積極的に進めたいものですね。親子で時間をとって取り組んでみてはいかがでしょうか。楽しい?と思いますよ。

(岩手小学校学校通信「みかげいし」第32号より)

たのスポ「バスケットボール特集」を読んで

思い描いたこと

現在学校は、学校現場は、体育に限らず全ての教育活動(教科、教科外)において、飽和状態のような気がする。「飽和状態」という表現が適当だろうか。お腹いっぱい食べながら消化しきれずに、リバースしそうな状態、下世話な言い方だとこんな感じであろうか。

総合でいうところの「環境、情報、福祉、国際理解、健康・・・」そこから発展するもの、食教育、キャリア教育、etc……。とにかく 教育が多すぎる。公教育なのだから、オーソドックスで、スタンダードなものでいいはずなのだが・・・。

話を戻すが、体育においても然り。ちょっと前までは、「よおし、今度のボール運動20時間くらいやってみるぞ。」なんて気合いを入れて取り組んだ記憶がある。今は昔、である。

この特集を見て思い出したことがある。17,8年前に例会で報告された飯久保 T.の「シュートボール実践」である。当時教師なりたての私、初任研1年目ということで研修三昧だったが、あのレポート報告は衝撃だった。型にはまった、あまり読む意欲を駆り立てられない実践報告しか目にしなかった私にとって、ねらいや児童の実態や計画などが、順番どおりに羅列してあるものと違い、教師の思いやつぶやきや悩みが、子供たちの活動に合わせて書かれてあるレポートは、非常に面白かった。計画通りに進むはずもなく、その時その時の様子で次時が展開されていく、いやあ本当に読んでいて楽しかった。もちろん今も私のバイブルの1つだ。

現在あのような実践が可能だろうか。許されるだろうか。いや、ぜひ挑んでみたい。現在6年を担任している。通信簿の評価項目をにらみ、「あと、これしなきゃ。」とぼやきながら、事務局の再三の指示によろやく応えつつ、いまだ何もしていない諸帳簿と相対峙している。

2007/04/01 午後7時23分大月市立鳥沢小学校 蔦木治彦

君はNHKのフラッグフットボールを見たか

2月末の土曜日だったと思う。(日ははっきりしない)

何気なく新聞の番組欄を見ると「フラッグフットボール」の文字が目に入った。

番組名はNHK教育テレビ「テレビスポーツ教室」の内容紹介であった。「何をやるんだろう。」と思いながらすぐにビデオの準備をした。

指導は、NPOフットボールジャパン理事長、後藤完夫氏、実技は、その組織のメンバーと思われる社会人5名と、大学生(成城大学、早稲田大学)、そして、慶応義塾幼稚舎のフラッグフットボールチームのメンバーだった。

後藤氏は、アメリカンフットボールのスピードや技術を誰でも安全に体感できる、フィットネス感覚のスポーツであり、老若男女誰でも楽しめるスポーツであると紹介していた。数年前にニュースで紹介したこともある、NFLフラッグとともに、日本でのフラッグフットボールの普及をはかり、大会等を運営している法人である。

番組の内容は、ルール(一応の公式ルール)を簡単に説明し、その後試合に勝てる作戦とその練習方法を紹介していた。個人スキルの練習では、特に、オフェンスではパス攻撃の基本となる、パスとレシーブの練習、ディフェンスもそれにあわせてインターセプトのドリル練習の方法が中心であった。5対5の試合形式の練習では、ディフェンスではマンツーマンとゾーンの二種類の練習をしていた。オフェンスでは、一般的な攻撃としてショットガンフォーメーションを中心に作戦をいくつか紹介していた。

「最後に相手にコンタクトしない」ことが一番であり、そうならないための技術を身につけることが大切なこととしていた。

自分のチームや相手チームの技術や能力、特徴を考えて、オフェンスやディフェンスの作戦を考えることは、同志会と同じである。しかし、ショットガンは、スナップバックが難しいだけでなく、パサーもミスも多くなり、初心者には正確にはできず、作戦を実行する前にミスが多くなりたがるか。また、番組では、すでにフラッグフットボールを理解し、練習や試合経験が豊富なメンバーが見せるための実技をしているので、初心者のようなミスがまったくない、というよりも映像にない。パスゲームは、大きなダウンを期待できるが、ラン中心の作戦が初心者には適していると思う。しかし、一番驚いたことはNHKで放送されたことだった。(自分が見逃したかもしれないが)

ビデオを見たい方は植松まで、インターネットでは「NPOフラッグフットボール」「NFLフラッグ」で検索するとホームページに詳しい内容があります。

< 編集後記 >

選挙の年、その結果も気になりますが、教育法案、国民投票制度、憲法改正などはどうなるのでしょうか。心配です。

学校体育同志会の研究会や情報はホームページをご覧ください。
風林火山への投稿もお願いします。(植松和浩)

TEL 0551(36)5030 (21時まで)

メール trfmd350@ybb.ne.jp 又は trfmd350@yahoo.co.jp

次号予告

1. 例会案内
2. 関プロ報告
3. 最近の話題
4. 各種研究会・大会案内
5. その他